

新

旧

管工事標準仕様書

管工事標準仕様書

1. 工事標準仕様書
2. 施工要領
3. 水道配水用ポリエチレン管
4. 参考資料
5. 様式集
6. 標準図集
7. 工事写真及び電子納品

1. 工事標準仕様書
2. 施工要領
3. 水道配水用ポリエチレン管
4. 参考資料
5. 様式集
6. 標準図集
7. 工事写真及び電子納品

改訂の経過	平成 元年	初版発行
	平成 6年	改訂版(増改訂加除式)
	平成 7年4月	一部改訂
	平成 7年5月	一部改訂
	平成12年3月	全面改訂
	平成17年3月	一部改訂
	平成26年4月	全面改訂
	平成27年4月	一部改訂
	平成28年5月	全面改訂
	平成29年6月	一部改訂
	令和 2年5月	一部改訂
	令和 3年1月	一部改訂
	令和 4年5月	一部改訂
	令和 5年5月	一部改訂
	令和 6年5月	一部改訂

発行 豊橋市上下水道局
編集 水道管路課

改訂の経過	平成 元年	初版発行
	平成 6年	改訂版(増改訂加除式)
	平成 7年4月	一部改訂
	平成 7年5月	一部改訂
	平成12年3月	全面改訂
	平成17年3月	一部改訂
	平成26年4月	全面改訂
	平成27年4月	一部改訂
	平成28年5月	全面改訂
	平成29年6月	一部改訂
	令和 2年5月	一部改訂
	令和 3年1月	一部改訂
	令和 4年5月	一部改訂
	令和 5年5月	一部改訂

発行 豊橋市上下水道局
編集 水道管路課

新	旧
<p>1. 工事標準仕様書</p> <p>第1章 総 則</p> <p>1-1 総則</p> <p>1-1-4 施工計画書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 受注者は、工事の適正な施工を図るため、工事の施工に先立ち、あらかじめ施工計画書を監督員に提出しなければならない。 2 受注者は、施工計画書を遵守し工事の施工にあたらなければならない。 3 施工計画書の取扱いについては、豊橋市土木工事施工計画書取扱要領の規定により行うものとする。ただし、当初請負代金額 4,000 万円未満の工事において、施工計画書の記載内容を一部省略する項目について、(5)主要資材は省略できないものとする。 	<p>1. 工事標準仕様書</p> <p>第1章 総 則</p> <p>1-1 総則</p> <p>1-1-4 施工計画書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 受注者は、工事の適正な施工を図るため、工事の施工に先立ち、あらかじめ施工計画書を監督員に提出しなければならない。 2 受注者は、施工計画書を遵守し工事の施工にあたらなければならない。 3 施工計画書の取扱いについては、豊橋市土木工事施工計画書取扱要領の規定により行うものとする。ただし、当初請負代金額 3,500 万円未満の工事において、施工計画書の記載内容を一部省略する項目について、(5)主要資材は省略できないものとする。

新	旧
<p>第4章 管布設工</p> <p>4-3 水圧試験</p> <p>1 受注者は、一部の異形管を除き、呼び径900mm以上のダクタイル鋳鉄管の継手箇所についてテストバンドを用いて水圧試験を行わなければならない。</p> <p>ただし、特記仕様書で別の定めがある場合は、これによらなければならない。</p> <p>2 受注者は、呼び径800mm以下のダクタイル鋳鉄管で施工後すぐに供用を開始しない区間については、充水による管路水圧試験を行わなければならない。なお、試験にあたっては以下の点に注意して実施すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 管路の負荷する水圧は設計水圧以下とし、現場に応じて監督員が指示する水圧とする。 ・ 水圧試験の開始は管路の充水完了後一度加圧を止め、一昼夜程度経過後、再度既定の圧力まで加圧してから行うこと。 ・ 水圧試験は加圧を止めて実施すること ・ 水圧試験は、コンクリート防護等管の拔出し防止措置を行った後に実施すること。 ・ 水の代わりに空気をを用いて試験を行うことは、絶対に行ってはならない。 <p>3 受注者は、新設した不断水仕切弁及び割T字管について、監督員の立会のもとで行わなければならない。</p> <p>4 水圧試験の試験圧力は下表により行うこと。</p>	<p>第4章 管布設工</p> <p>4-3 水圧試験</p> <p>1 受注者は、一部の異形管を除き、呼び径900mm以上のダクタイル鋳鉄管の継手箇所についてテストバンドを用いて水圧試験を行わなければならない。</p> <p>ただし、特記仕様書で別の定めがある場合は、これによらなければならない。</p> <p>2 受注者は、呼び径800mm以下のダクタイル鋳鉄管で施工後すぐに供用を開始しない区間については、充水による管路水圧試験を行わなければならない。なお、試験にあたっては以下の点に注意して実施すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 管路の負荷する水圧は設計水圧以下とし、現場に応じて監督員が指示する水圧とする。 ・ 水圧試験の開始は管路の充水完了後一度加圧を止め、一昼夜程度経過後、再度既定の圧力まで加圧してから行うこと。 ・ 水圧試験は、コンクリート防護等管の拔出し防止措置を行った後に実施すること。 ・ 水の代わりに空気をを用いて試験を行うことは、絶対に行ってはならない。 <p>3 受注者は、新設した不断水仕切弁及び割T字管について、監督員の立会のもとで行わなければならない。</p> <p>4 水圧試験の試験圧力は下表により行うこと。</p>

種 類	試験圧力	5分後の圧力
テストバンド 使用の場合	0.5MPa (5.0Kgf/ cm ²)	0.4MPa (4Kgf/cm ²) 以上

種 類	試験圧力	24時間後の圧力	結果
充水による試験の 場合	監督員の 指示に よる	試験開始時と同一の 圧力	合格
		試験開始時から30% 以内の圧力低下	48時間 後まで 試験継 続
		試験開始時から30% を超える圧力低下	不合格
		48時間後の圧力	結果
		24時間後から同一の 圧力	合格
		24時間後から圧力低 下	不合格

種 類	試験圧力	3分後の圧力
不断水、割T字 管の場合	0.75MPa (7.5Kg f/cm ²)	0.6MPa (6Kgf/cm ²) 以上

- ・加圧後、規定時間経過後の水圧が規定値以上保持していれば合格とする。もし、これを下まわった場合は、**エア抜きのうえ再度水圧試験を行う。**繰り返しても規定値を満たさない場合は、再度接合し直し再び水圧試験を行わなければならない。

種 類	試験圧力	5分後の圧力
テストバンド 使用の場合	0.5MPa (5.0Kgf/ cm ²)	0.4MPa (4Kgf/cm ²) 以上

種 類	試験圧力	24時間後の圧力
充水による試 験の場合	監督員の指示に よる	試験開始圧力から3 0%以内の降下
		48時間後の圧力
		試験開始圧力から3 0%以内の降下で2 4時間後から平衡状 態

種 類	試験圧力	3分後の圧力
不断水、割T字 管の場合	0.75MPa (7.5Kg f/cm ²)	0.6MPa (6Kgf/cm ²) 以上

- ・加圧後、規定時間経過後の水圧が規定値以上保持していれば合格とする。もし、これを下まわった場合は、再度接合し直し再び水圧試験を行わなければならない。
- ・充水による試験において24時間後の圧力が試験開始から変わらないと監督員が認めた場合、その時点で合格とする。

- 5 試験作業に必要な加圧機器は、受注者が準備しなければならない。
- 6 受注者は、試験結果を「水圧試験報告書」により監督員に提出しなければならない。

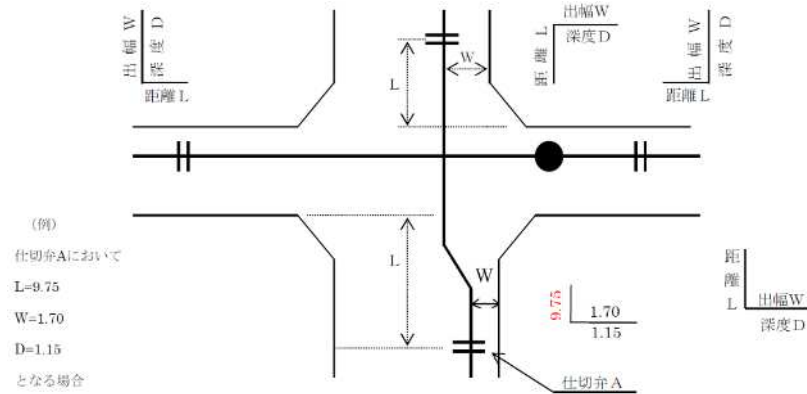
- 5 試験作業に必要な加圧機器は、受注者が準備しなければならない。
- 6 受注者は、試験結果を「水圧試験報告書」により監督員に提出しなければならない。

新	旧
<p>2. 施工要領</p> <p>第 2 章 しゅん工図作成基準</p> <p>2-1 総則</p> <p>2-1-2 提出図面</p> <p>1 受注者は、工事完了後直ちにしゅん工図を作成し、しゅん工図チェックリストで内容を確認のうえ速やかに提出するものとする。</p> <p>2 しゅん工図の納品はCD-R等の電子媒体により提出するものとし、データ形式は、導水管・送水管・配水管はTIFF形式で規格はA1を基本とする。また、データの容量は図面1枚につき1MB程度とする。</p> <p>3 しゅん工図は、データ量の軽減及び表示の見易さを考慮し、できるだけ枚数を少なくする。</p> <p>4 平面図及び関連した詳細図は、原則として同一紙面に記載し、順序よく表記する。</p> <p>5 やむを得ない理由により平面図と詳細図を別紙に記載する場合は、その関連を明確に表示する。</p> <p>6 給水引込管はPDF形式で規格はA4を基本とし、1軒ごとにファイルを分けて作成する。</p> <p>2-1-6 作図一般</p> <p>1 作図は、出来るだけ簡素化した製図技法を用い、文字、記号及び線が、明瞭、かつ十分識別できるものとする。</p> <p>2 作図は、黒色を用いるものとする。</p>	<p>2. 施工要領</p> <p>第 2 章 しゅん工図作成基準</p> <p>2-1 総則</p> <p>2-1-2 提出図面</p> <p>1 受注者は、工事完了後直ちにしゅん工図を作成し、しゅん工図チェックリストで内容を確認のうえ速やかに提出するものとする。</p> <p>2 しゅん工図の納品はCD-R等の電子媒体により提出するものとし、データ形式は、TIFF形式で規格はA1を基本とする。また、データの容量は図面1枚につき1MB程度とする。</p> <p>3 しゅん工図は、データ量の軽減及び表示の見易さを考慮し、できるだけ枚数を少なくする。</p> <p>4 平面図及び関連した詳細図は、原則として同一紙面に記載し、順序よく表記する。</p> <p>5 やむを得ない理由により平面図と詳細図を別紙に記載する場合は、その関連を明確に表示する。</p> <p>2-1-6 作図一般</p> <p>1 作図は、出来るだけ簡素化した製図技法を用い、文字、記号及び線が、明瞭、かつ十分識別できるものとする。</p> <p>2 作図は、黒色インクを用いるものとする。</p>

新	旧
<p>2. 施工要領</p> <p>第 2 章 しゅん工図作成基準</p> <p>2 - 1 総則</p> <p>2 - 2 - 4 平面図</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平面図は、原則として監督員から貸与されたしゅん工図用下図を利用する。 2 管路、施工区分の表示 <ol style="list-style-type: none"> 1) 新設管路は、必ずスケールを用い正確な位置に記入する。 2) 施工区分表示は、施工区分が明確に判別できるように表示する。 3) 新設管及び付属具類は、形状寸法（管種、継手、呼び径）、布設位置（出幅、深度）及び延長を記入する。 4) 布設実延長と平面延長が異なる場合は、平面延長を括弧書きで記入する。 5) 新設管と既設管の連絡工事は、既設管の形状寸法（管種、継手、呼び径）及び布設位置（出幅、深度）を確認して記入する。 6) 呼び径はmm単位で整数表示、延長はm単位で少数第2位以下を切り捨て少数第1位まで記入する。 7) 新設管は太い実線で、既設管は細い破線で表し、撤去管等使用を止めた管は×をうつ。 8) 仕切弁・バルブ等を旗上げて記入する。 	<p>2. 施工要領</p> <p>第 2 章 しゅん工図作成基準</p> <p>2 - 1 総則</p> <p>2 - 2 - 4 平面図</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平面図は、原則として監督員から貸与されたしゅん工図用下図を利用する。 2 管路、施工区分の表示 <ol style="list-style-type: none"> 1) 新設管路は、必ずスケールを用い正確な位置に記入する。 2) 施工区分表示は、施工区分が明確に判別できるように表示する。 3) 新設管及び付属具類は、形状寸法（管種、継手、呼び径）、布設位置（出幅、深度）及び延長を記入する。 4) 布設実延長と平面延長が異なる場合は、平面延長を括弧書きで記入する。 5) 新設管と既設管の連絡工事は、既設管の形状寸法（管種、継手、呼び径）及び布設位置（出幅、深度）を確認して記入する。 6) 呼び径はmm単位で整数表示、延長はm単位で少数第2位以下を切り捨て少数第1位まで記入する。 7) 新設管は太い実線で、既設管は細い破線で表し、撤去管等使用を止めた管は×をうつ。

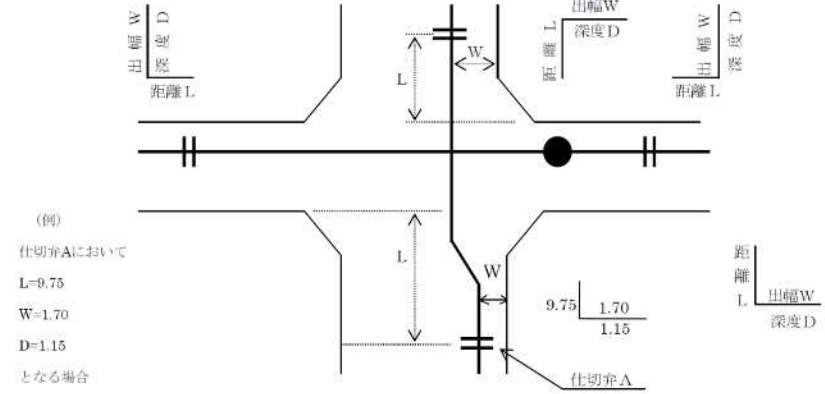
2-2-8 新設弁栓類のオフセット表示

- 1 文字（数値を含む）は明瞭に書き、横書きを原則とする。
- 2 オフセットは、平面図上に記入する。
- 3 平面図上への弁栓類の記載位置は、オフセット数値に合わせて正確に記入する。
- 4 出幅（W）は、原則として官民境界線からの距離とする。
- 5 深度（D）は、道路面から管上までの距離とする。
- 6 距離（L）は、近接する横断道路の官民境界の延長線上からの距離とする。
- 7 出幅（W）は、深度（D）及び距離（L）は、次に示す様式により明瞭かつ十分認識できるように表示する。



2-2-8 新設弁栓類のオフセット表示

- 1 文字（数値を含む）は明瞭に書き、横書きを原則とする。
- 2 オフセットは、平面図上に記入する。
- 3 平面図上への弁栓類の記載位置は、オフセット数値に合わせて正確に記入する。
- 4 出幅（W）は、原則として官民境界線からの距離とする。
- 5 深度（D）は、道路面から管上までの距離とする。
- 6 距離（L）は、近接する横断道路の官民境界の延長線上からの距離とする。
- 7 出幅（W）は、深度（D）及び距離（L）は、次に示す様式により明瞭かつ十分認識できるように表示する。



水道配水用ポリエチレン管工事標準仕様書

3 施工管理

ソケット (HPPE×HPPE・CIP・VP) 継手チェックシート

工事名											
工事場所											
受注者											
監督技術者							現場代理人				
工事記録の日付	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	
継手№											
口径											
継手の管種											
管及び接合材清掃											
接合部材取付確認											
標線マーキング (管端から)											
インコア確認 (HPPEのみ)											
ストップリング 取付確認											
継付トルク確認 (またはメタルタッチ)											
判定											
備 考											

水道配水用ポリエチレン管工事標準仕様書

3 施工管理

ソケット (HPPE×HPPE・CIP・VP) 継手チェックシート

工事名											
工事場所											
受注者											
監督技術者							現場代理人				
工事記録の日付	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	
継手№											
口径											
継手の管種											
管及び接合材清掃											
接合部材取付確認											
標線マーキング (管端から)											
インコア確認 (HPPEのみ)											
ストップリング 取付確認											
継付トルク確認 (またはメタルタッチ)											
判定											
備 考											

--	--